

A large, stylized version of the GiXo logo, centered on the page. The letters are white with a grey shadow effect, and the 'X' is particularly prominent. Below the 'o' are three horizontal lines of varying lengths, matching the logo in the top right corner.

株式会社ギックス (東証グロース 9219)  
2023年6月期 第3四半期決算説明資料

業績サマリー	概況	今期3Q累計は、前年同期比で高い成長を実現
	売上高	1,275百万円（前年同期比173.2%） 参考）対修正前予想進捗率 86.7 %
	営業利益	338百万円（前年同期比719.2%） 参考）対修正前予想進捗率 162.4 %
実施内容 および 背景情報	案件推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存重点クライアントを中心に、縦横展開が堅調</li> <li>• JR西グループ内における、マイグルの活用促進</li> <li>• マイグルサブスクリプションのサービス開始</li> </ul>
	研究開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各種サービス開発を実行</li> <li>• 研究開発活動が一部有償化したことにより、売上増</li> </ul>
	人材獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Beyondge社との業務提携を核に、人材採用活動を加速</li> </ul>
今後の展開	事業活動	4Qは研究開発および人材採用への、投資を強化
	業績予想	売上高       :   当初1,470百万円   ⇒  1,670百万円   (13.6%増) 営業利益     :   当初  208百万円   ⇒   324百万円   (55.6%増)

1. 会社概要

2. 業績情報

3. Appendix

a. 市場環境

b. 事業内容

c. 競争優位性

d. 成長戦略

名称	株式会社ギックス
設立	2012年12月12日設立
事業内容	データインフォームド事業
経営陣	代表取締役CEO： 網野 知博 取締役： 花谷 慎太郎 取締役： 田中 耕比古 取締役（社外）： 田村 誠一
資本金	資本金： 2億8592万円 資本準備金含む： 14億4417万円
事業場所	東京本社（三田国際ビル） 大阪オフィス（グランフロント大阪）
事業提携先	BIPROGY株式会社（資本業務提携契約） 西日本旅客鉄道株式会社（資本業務提携契約） 株式会社ローランド・ベルガー（業務提携契約） 株式会社電通コンサルティング（業務提携契約） 株式会社ベーシック（業務提携契約） Beyondge株式会社（業務提携契約）

# あらゆる判断を、Data-Informedに。

ギックスは、戦略コンサルティングの”データを用いて考える”という思考法と”データを考える材料に昇華する”高度なアナリティクス能力を組み合わせた、新しいタイプのプロフェッショナルサービス集団です。

クライアント企業の経営課題解決、競争力強化のために、データを用いて物事を理解・判断する「データインフォームド」を推進しています。

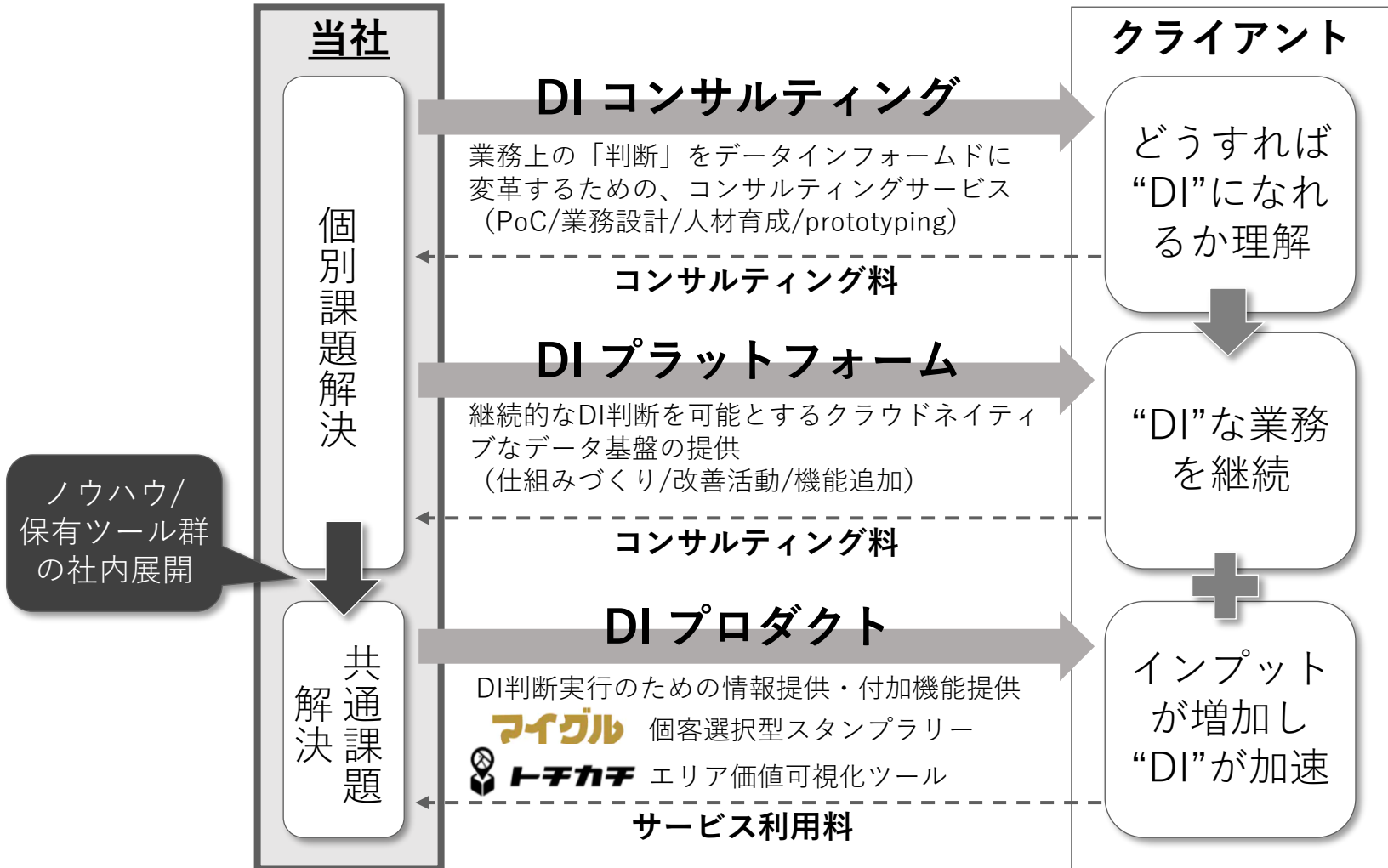
 データを全く用いずに  
勘・経験・度胸で判断する

 データに全てを委ねて  
考えることを放棄する

  
データから導き出される発見・示唆を  
人間の判断の材料として用いる

→ あくまでも、“**主役**”は人間。

クライアント企業を”データインフォームド(DI)”な状態に変革するために、3種類のサービスを提供している。

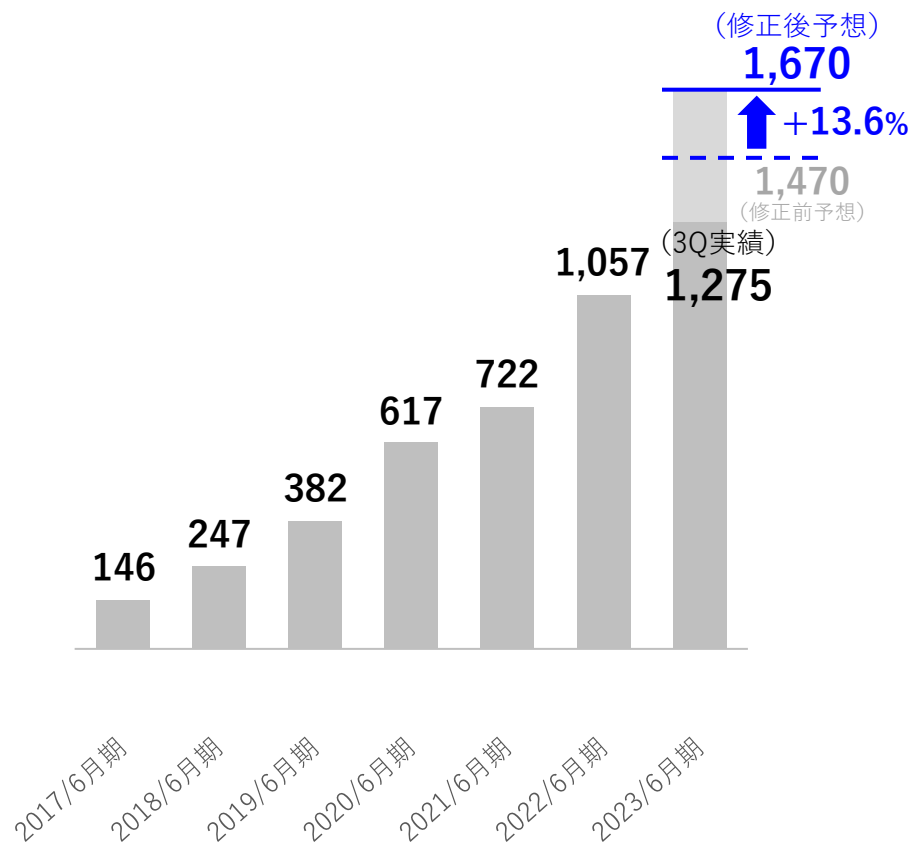


2012年 12月	東京都渋谷区にて、株式会社ギックス設立
2014年 8月	東京都港区へ本社移転
2016年 2月	SBIインベストメント株式会社を引受先とする 第三者割当増資の実施
2018年 12月	BIPROGY株式会社と業務提携契約を締結
2019年 1月	西日本旅客鉄道株式会社と資本業務提携契約を締結 併せて株式会社JR西日本イノベーションズを引受先とする 第三者割当増資の実施
2019年 8月	大阪市北区に大阪オフィスを設立
2019年 8月	株式会社ローランド・ベルガーと業務提携契約を締結
2019年 12月	エリア情報サービス「トチカチ」の提供を開始
2020年 1月	個客選択型スタンプラリー「マイグル」の提供を開始
2021年 4月	BIPROGY株式会社と資本業務提携を締結
2021年 4月	BIPROGY株式会社、株式会社JR西日本イノベーションズ、 三菱UFJキャピタル株式会社を引受先とする 第三者割当増資の実施
2022年 3月	東京証券取引所マザーズへ上場
2022年 3月	BIPROGY株式会社と業務提携契約を強化し再締結
2022年 4月	東京証券取引所グロースへ市場変更
2022年 4月	株式会社電通コンサルティングと業務提携契約を締結
2022年 5月	株式会社ベーシックと業務提携契約を締結
2023年 3月	Beyondge株式会社と業務提携契約を締結

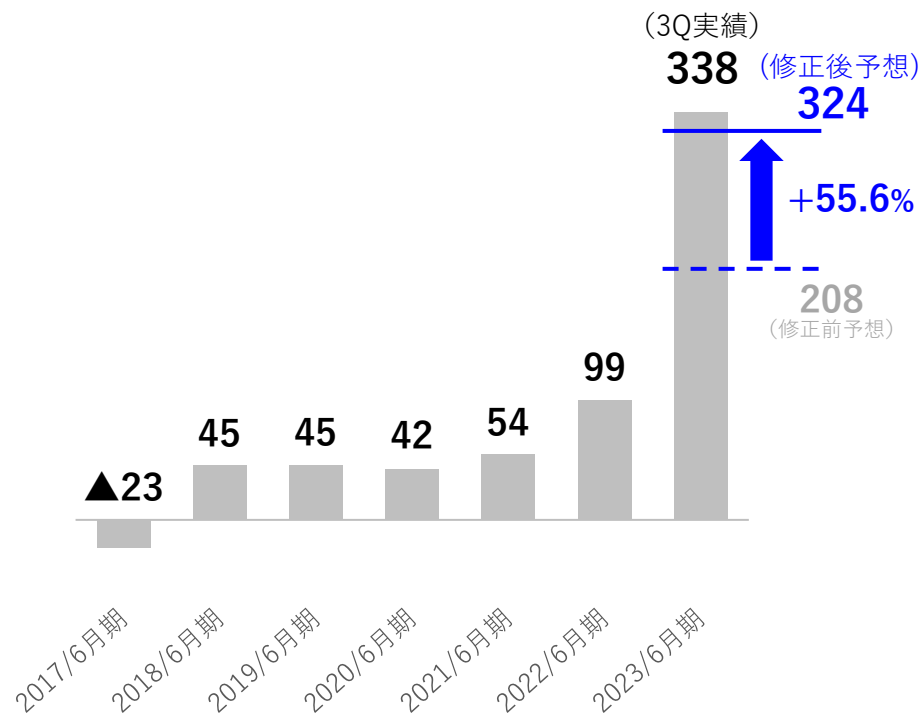


当初予定に対して大幅な超過が見込まれるため、上方修正を公表致しました。  
修正前予想および修正後予想に対する3Q実績は以下の通りです。

## 売上高（単位：百万円）



## 営業利益（単位：百万円）



1. 会社概要

2. 業績情報

3. Appendix

a. 市場環境

b. 事業内容

c. 競争優位性

d. 成長戦略

大手クライアント企業における「縦横展開」が奏功した結果、第11期（2023年6月期）第3四半期は、前年同期比73%増で着地。

第10期（22/6月期）

第3四半期累計

(2021年7月1日から2022年3月31日まで)

第11期（23/6月期）

第3四半期累計

(2022年7月1日から2023年3月31日まで)

売上高

736百万円

+538百万円  
(成長率73%)

1,275百万円

売上総利益

336百万円

+359百万円  
(成長率107%)

695百万円

営業利益

47百万円

+291百万円  
(成長率619%)

338百万円

四半期純利益

28百万円

+203百万円  
(成長率722%)

231百万円

## A. 売上高

**1,275百万円**  
前年同期比 **+73%**

個別課題  
解決

重点  
クライアント  
向け

- 部内展開（縦）・社内展開（横）の2方向で浸透が進み、いずれのサービスにおいても取扱高が増加

既存  
クライアント  
向け

- DIコンサルティングの需要が増進
- 新テーマや新部署での取り組み拡大に注力

共通課題  
解決

マイグル

- JR西日本グループ様でのご活用が堅調
- 東日本エリアなどでも展開を推進
- LINEミニアプリ版、および、新たに観光ルート提案機能をリリース

## B. 営業利益

**338百万円**  
前年同期比 **+619%**

売上原価率  
**54.4% → 45.4%**

- 研究開発活動の一部有償化
- DIプロダクト（主にマイグルの機能拡張）への投資を、より一層加速

販売管理費率  
**39.2% → 28.0%**

- 目標を上回る改善
- 継続的に比率低減に努める

営業利益率  
**6.4% → 26.6%**

- 研究開発活動の一部有償化に伴い、営業利益率は大きく改善

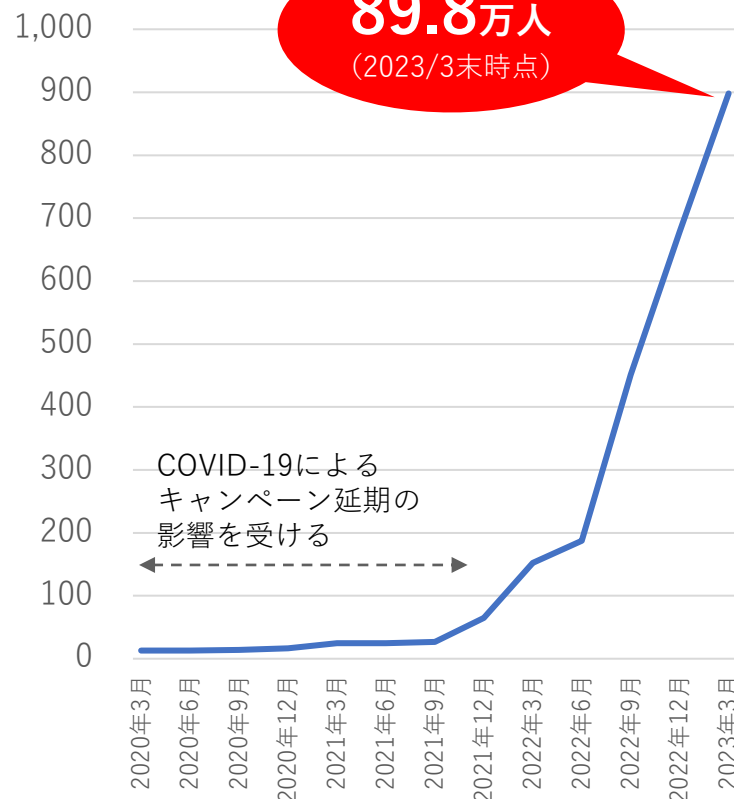
2020年3月のサービス開始以来、159キャンペーン（企画中含む）にご採用いただき、累計89.8万人のエンドユーザー様のご利用を達成しました。\*

## マイグル採用事例（2023年1月～3月開催抜粋）

- ・「乗ってまわろう！京都丹後鉄道デジタルスタンプラリー」（1月14日～3月10日）
- ・「和歌山線に乗っていこらよ デジタルスタンプラリー」（1月16日～2月26日）
- ・「東京駅一番街 冬のデジタルスタンプラリー キャンペーン」（1月12日～2月28日）
- ・JR西日本「大阪発サイコロきっぷチェックインラリー」（1月10日～2月14日）
- ・「エコール・いずみ 本館・アムゼモール25周年記念スタンプラリー」（2月3日～2月26日）
- ・「プラットプラットLINEスタンプラリー」（3月1日～3月26日）
- ・りんくうプレミアム・アウトレット「スマホで何度も挑戦できる！春のお買い物スタンプラリー」（3月10日～4月23日）
- ・グランツリー武蔵小杉「LINE de参加！グランツリーお買い物スタンプ」（2023年3月15日～2024年2月29日）※通年開催
- ・maruyama class「マルクラ14周年スタンプラリーチャレンジ」（3月18日～4月28日）
- ・JR西日本「駅起点のハイキング」キャンペーン（2023年4月1日～2024年3月31日）※通年開催

## マイグル参加者数（累計）

(単位：千人)



## 損益計算書

単位：千円

	2022年 6月期3Q	2023年 6月期3Q
<b>売上高</b>	736,389	1,275,337
売上原価	400,291	579,371
<b>売上総利益</b>	336,097	695,965
販売費及び 一般管理費	289,011	357,302
<b>営業利益</b>	47,086	338,663
税引前 四半期純利益	43,591	340,976
法人税等合計	15,434	109,596
<b>四半期純利益</b>	28,157	231,379

## 貸借対照表

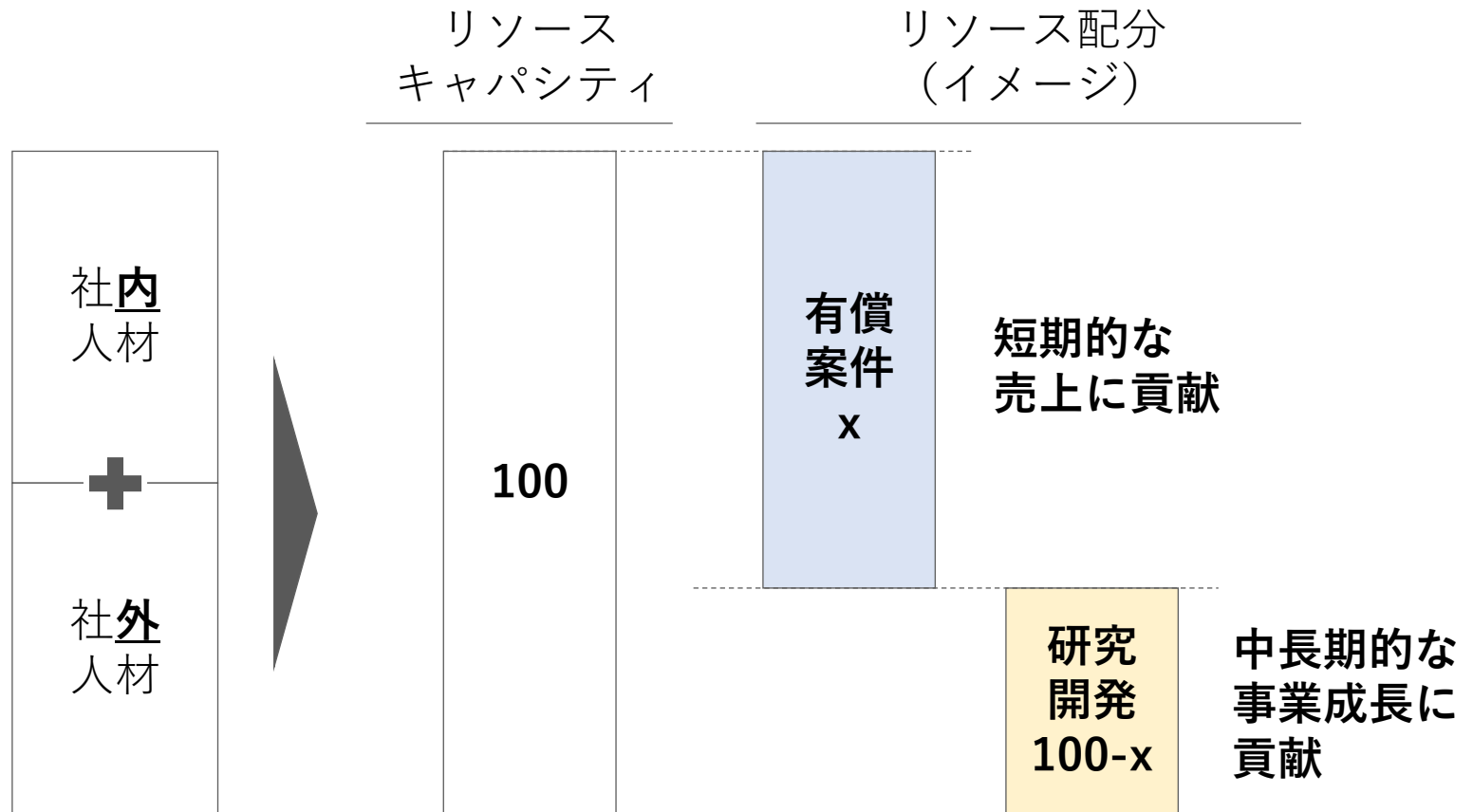
単位：千円

	2022年 6月期	2023年 6月期3Q
<b>流動資産合計</b>	1,883,660	2,189,609
現金及び預金	1,623,400	1,794,367
固定資産合計	112,198	120,196
<b>資産合計</b>	1,995,858	2,309,805
<b>流動負債合計</b>	219,568	332,662
1年内返済予定の 長期借入金	50,004	50,004
固定負債合計	130,594	93,265
長期借入金	95,821	58,318
<b>負債合計</b>	350,163	425,928
純資産合計	1,645,695	1,883,877
<b>負債純資産合計</b>	1,995,858	2,309,805

2022年8月公表の業績予想に対して、売上は順調に進捗。  
利益については3Q累計時点で100%を超える進捗率を達成。

	実績		当初予想
	第11期 (23/6月期) 第3四半期 (2022年7月1日から2023年3月31日まで)		第11期 (23/6月期) 通期 (2022年7月1日から2023年6月30日まで)
売上高	1,275百万円	進捗率 87%	1,470百万円
売上総利益	695百万円	進捗率 102%	684百万円
営業利益	338百万円	進捗率 162%	208百万円
四半期／当期 純利益	231百万円	進捗率 163%	141百万円

ギックスの研究開発は、社内外の人的リソースを活用して推進している。そのため、「売上（有償案件）」と「研究開発」のどちらを優先するかが経営判断となる。



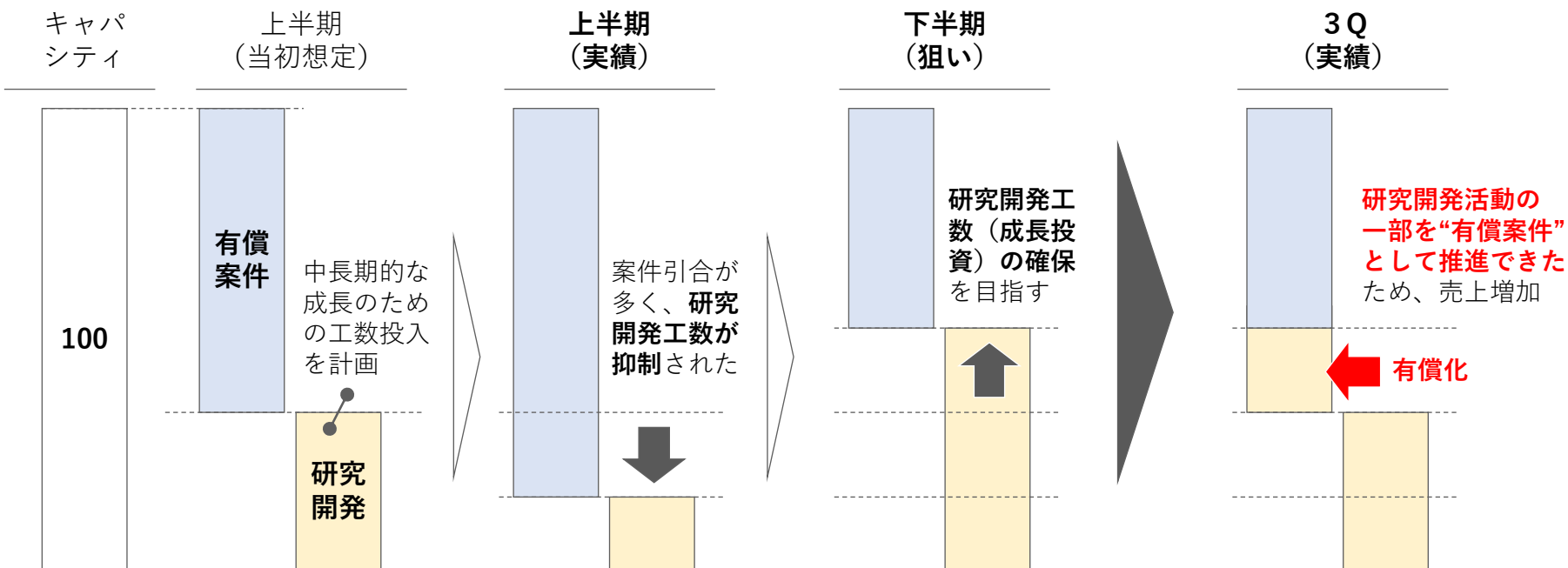
設備投資や資材購入などが必要ないビジネスモデルであることに加え、所属人材が「フロント機能」「研究開発機能」を兼ね備えているのが大きな特徴。



研究開発活動は第2四半期決算発表時の計画通りに推進。ただし、一部の取組みが有償案件化したため売上高が上振れ。

## 2Q時点の計画

## 3Qの結果



通常案件含めて、売上・利益ともに好調 → 業績予想を上方修正  
(なお、4Qは研究開発投資を、さらに加速・強化する予定)

3Q時点での順調な進捗と4Qの案件獲得状況を鑑み、通期業績予想を  
**上方修正**いたします。

	前回予想		今回予想
売上高	1,470百万円	+199百万円 +13.6%	1,670百万円
売上総利益	684百万円	+157百万円 +23.1%	842百万円
営業利益	208百万円	+115百万円 +55.6%	324百万円
当期純利益	141百万円	+85百万円 +60.2%	226百万円

3Q時点で売上高進捗率は76%（修正後業績予想ベース）。4Qは研究開発投資のさらなる加速・強化を見込んでいることから、3Q累計の進捗率は100%を超える数字。

## 実績

第11期（23/6月期）

第3四半期

（2022年7月1日から2023年3月31日まで）

売上高

**1,275**百万円

売上総利益

**695**百万円

営業利益

**338**百万円

四半期／当期  
純利益

**231**百万円

## 予想

第11期（23/6月期）

通期

（2022年7月1日から2023年6月30日まで）

進捗率 **76%**

**1,670**百万円

進捗率 **83%**

**842**百万円

進捗率 **104%**

**324**百万円

進捗率 **102%**

**226**百万円

**A. 売上高**

**1,670百万円**  
前期比 +58%

既存クライアント向け  
**縦横展開の推進**

- 重点クライアント内縦横展開を継続推進
- 既存クライアントの重点化（取引増大）

**営業体制・プロジェクト  
推進体制の強化**

- Beyondge社との提携を核に、人材採用を強化
- プロフェッショナル・ネットワークを活用し、デリバリー体制を拡充

**開発体制の強化**

- Chief Technologist を中心に、エンジニア組織の整備・強化を推進

**DIプロダクト  
の強化**

- マイグルの大手クライアントの自社アプリへの組み込みを推進（=継続利用の実現）

**B. 営業利益**

**324百万円**  
前期比 +227%

売上原価率  
**54.0% → 49.6%**

- **DIプロダクトへの継続投資**
  - ✓ マイグルの機能強化投資（継続）
  - ✓ 新プロダクトへの研究開発投資（新規）
- アセット活用による生産性向上

販売管理費率  
**36.6% → 31.0%**

- 4Qに研究開発投資および採用関連費用を見込む  
→ 中期的には業界水準に落ち着くと想定

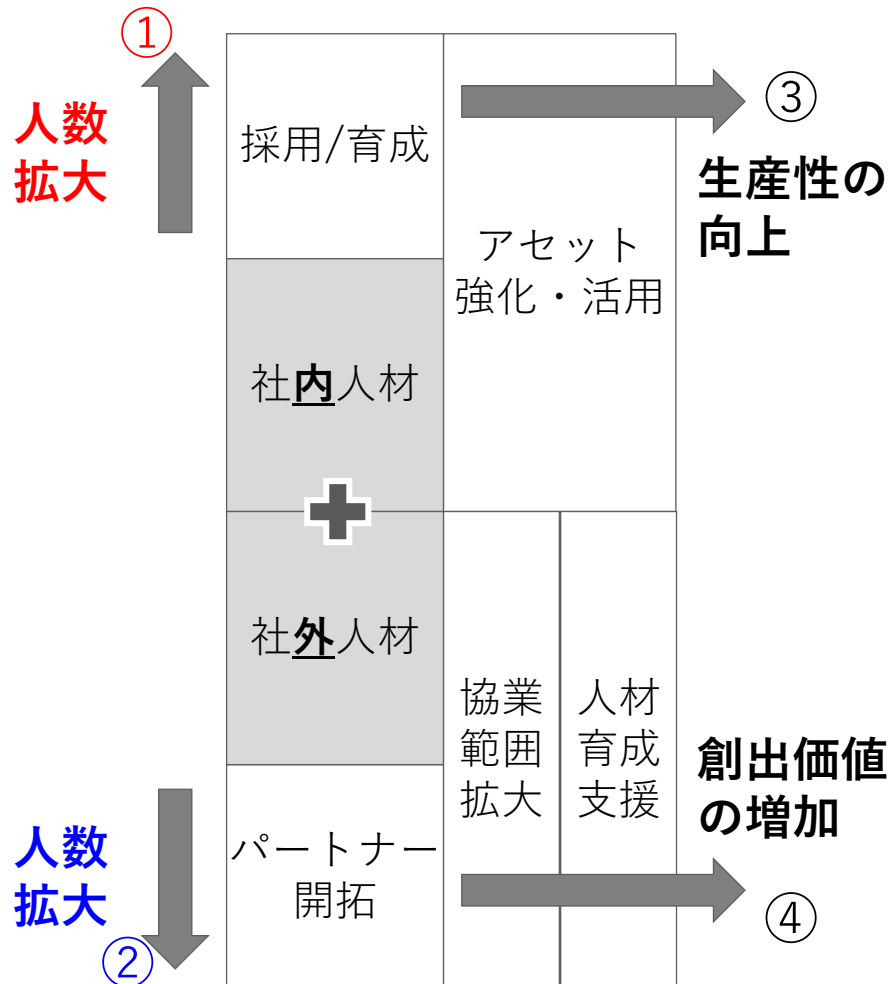
営業利益率  
**9.4% → 19.4%**

- 第11期も積極的な成長投資は継続するものの、研究開発活動の一部有償化に起因して、営業利益が改善
- **研究開発投資は、継続的に推進**

2Q時点：①、②の取り組みを強化。③、④は従来通り継続。

➔現在：①をBeyondge社との提携を核に推進。②を起点にした採用も。

## 直近の強化領域



①  
採用強化

- 採用チームの体制強化（社内リソースの強化に加えて、外部委託先も増員）
- KPIの見直し・再定義（採用リードタイム、応募者満足度、等）

②  
パートナー開拓

- プロフェッショナル人材ネットワークの構築・活用
- ※当社経営陣の人脈を中心に、戦略コンサルタント経験者、事業会社経営職経験者、トップコーダー、セールススペシャリスト等の独自ネットワークを構築。パートナー契約により当社プロジェクトにご参画頂く。

人的リソースは、社内外問わず積極的に拡大施策を推進中。

## Beyondge社との業務提携

2023年3月15日 発表



- スタートアップの創出・育成とエンタープライズのグロースハックを強みとするイノベーションスタジオ Beyondge（ビヨンジ）社と提携
- まずは、当社の採用領域改革を推し進める
- 中長期的には、人材領域を含む新規事業領域での協業を視野

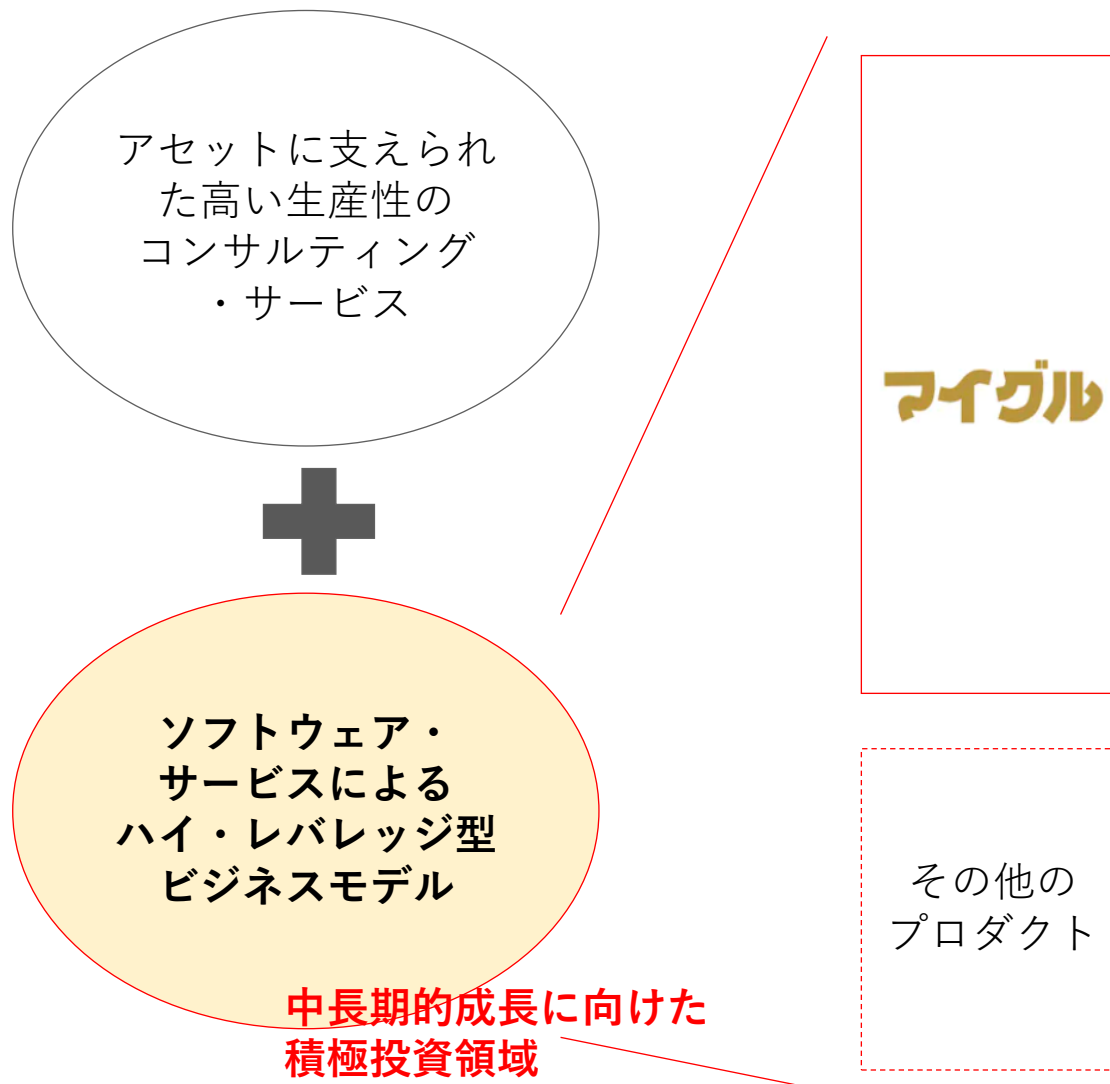
## 新規事業担当の採用

2023年4月3日 発表

- 当社のプロフェッショナル人材ネットワークの一員として活動していた事業推進プロフェッショナルを、当社Managing Directorとして採用
- 大手広告代理店、外資系コンサルティングファーム、大手事業会社でのバイスプレジデントなど、多様な業界での豊富な経験を活かし、新規事業の企画・推進の加速に貢献

**いずれも「プロフェッショナル人材ネットワーク」からの発展**  
→ 今後も、外部・内部の適切な人材ミックスで成長加速を目指す

DIプロダクト「マイグル」の機能強化を主軸に、研究開発投資を行う。



既にローンチしており、顧客もついている「マイグル」を強化することで、**成功確度の高い成長**を狙う

### 【想定開発機能（抜粋）】

- ✓従来の「イベント型」に加え、「通年型」ニーズに対応
- ✓施設担当者/イベント管理者による、各種管理機能の追加（セルフサービスによる柔軟性向上）
- ✓観光旅行ニーズへの対応
- ✓インバウンド旅行者への対応

当社の各種アセットの活用領域を模索。（既に、プロトタイプが完成し、パイロットが始まっているものも存在。）

→ 研究開発投資を継続

1. 会社概要

2. 業績情報

3. Appendix

a. 市場環境

b. 事業内容

c. 競争優位性

d. 成長戦略



1. 会社概要

2. 業績情報

3. Appendix

a. 市場環境

b. 事業内容

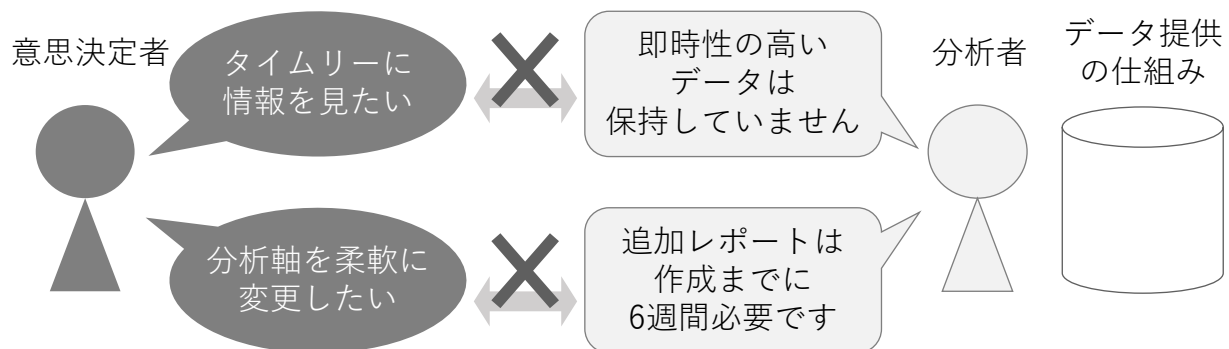
c. 競争優位性

d. 成長戦略

再現性の高い業務判断を行うためには、**勘・経験・度胸 (KKD)**を“データ”によって**補強**する必要がある。当社は、データの蓄積、加工および判断への活用方法を、一貫通貫でサポートすることにより、クライアントの判断をDIなものへと変革する。

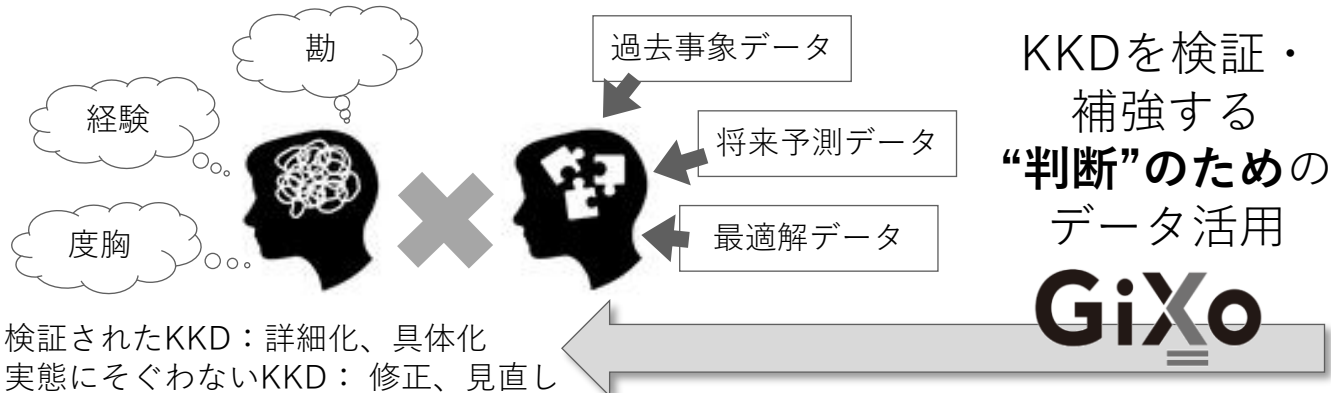
現在

## ビジネス判断に耐え得る速度/品質のデータが提供されない



DIな世界

## データインフォームド = KKD × データ



データを用いて論理的に考え、合理的に判断する「データインフォームド」の市場は、日常業務における業務判断領域において、特に有望と考える。

## ビジネス判断の種別

## 既存市場の状況

DIによる  
拡大余地

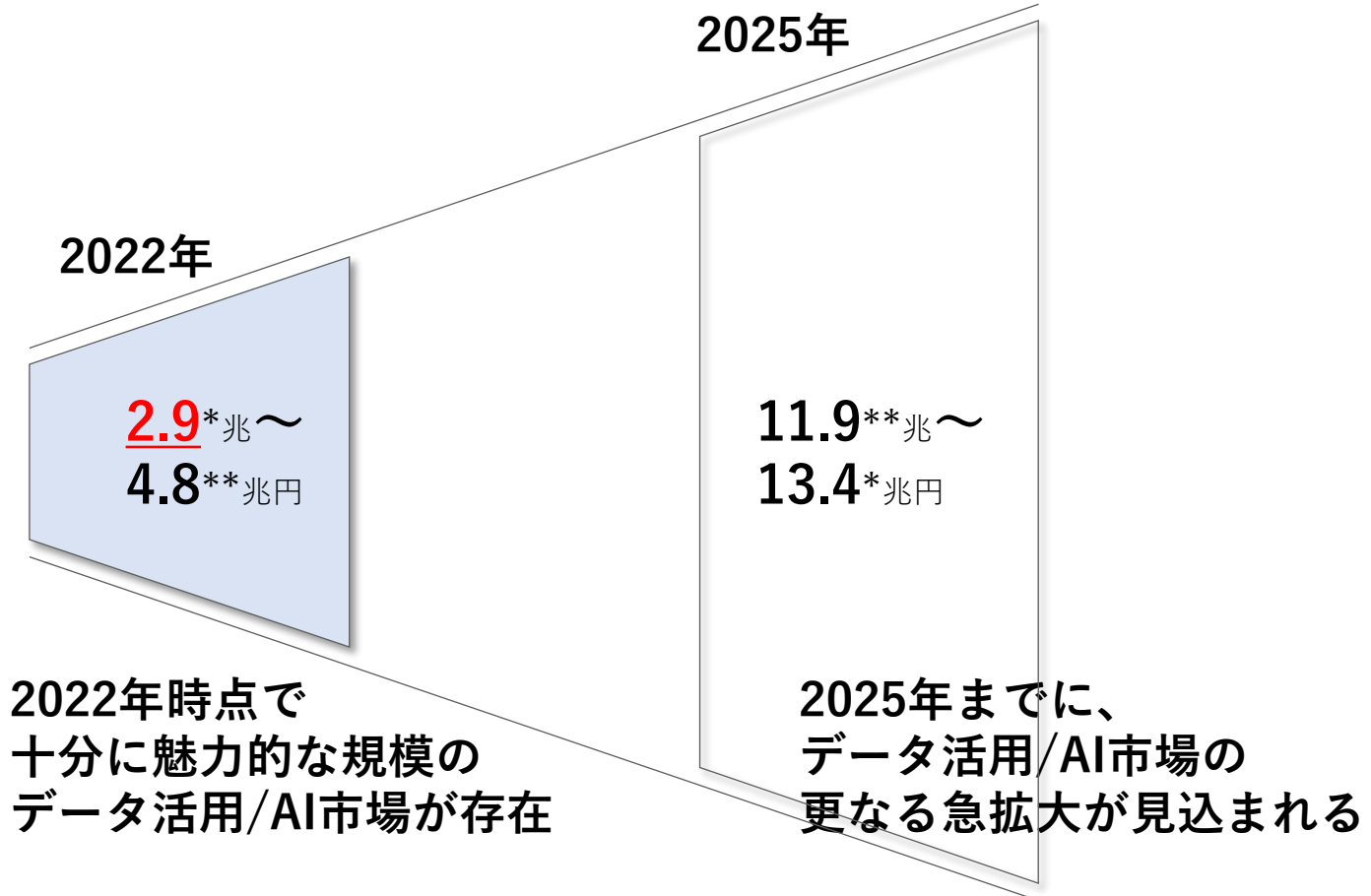
インパクト



発生頻度

DIによる付加価値向上余地は**2.9兆円**と大きな市場機会があると考える。  
(付加価値向上余地 = DI推進によって生じる売上増進・効率向上等の「経済効果」のこと)

## DI推進による付加価値向上余地



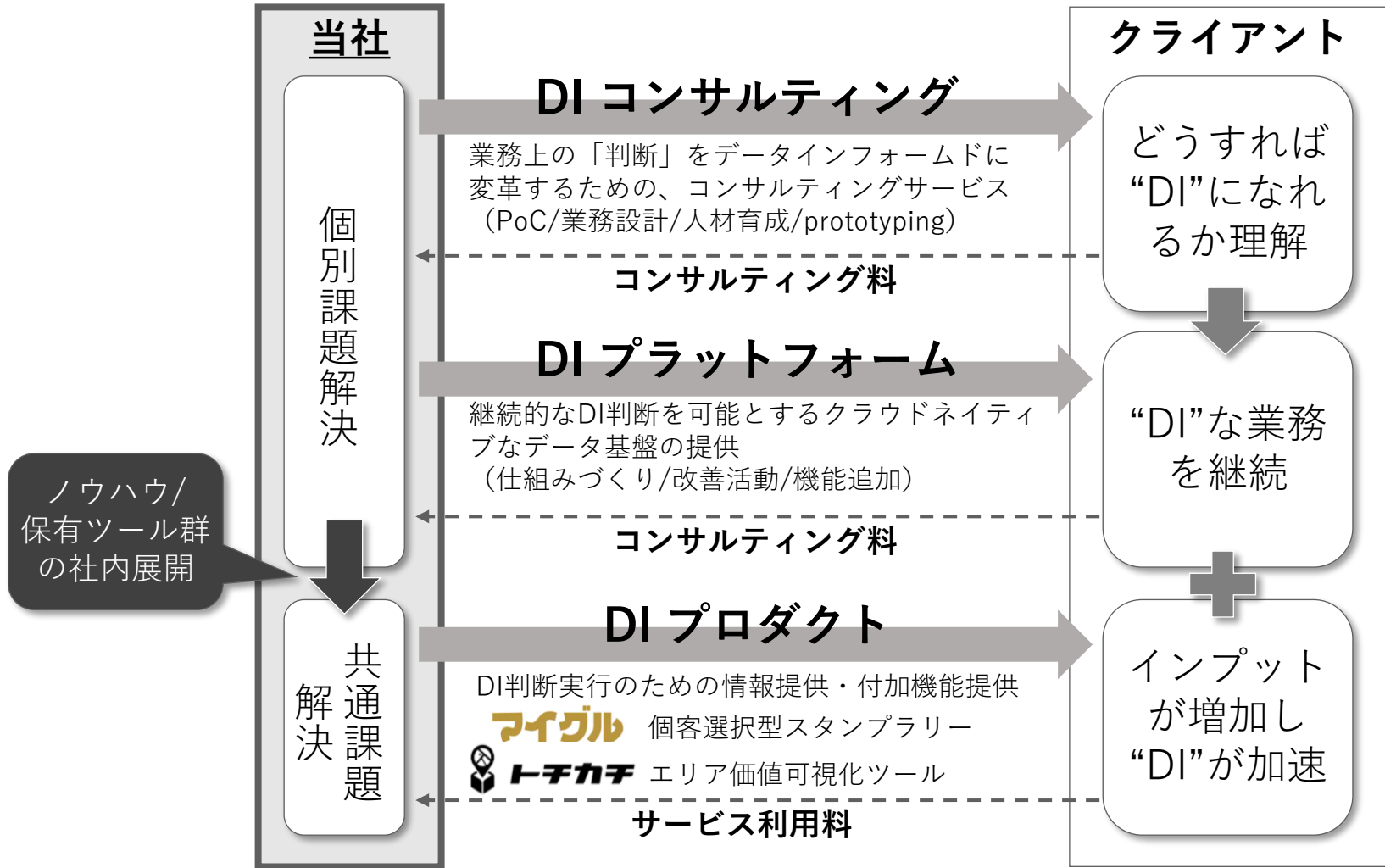
上記の金額は、当社が想定する最大の市場規模を意味しており、当社が2022年6月現在で営む事業に係る客観的な市場規模を示す目的で算出されたものではありません。下記各注記の通り、外部の統計資料や公表資料を基礎として試算されたものであり、その正確性にはかかる資料や試算に固有の限界があるため、実際の市場規模はかかる試算値と異なる可能性があります

\*：経済産業省 戦略的基盤技術高度化・連携支援事業（中小企業のAI活用促進に関する調査事業）最終報告書/2020年3月 を元に 三菱UFJリサーチ&コンサルティング社 試算

\*\*：アクセンチュア株式会社 “HOW I BOOSTS INDUSTRY PROFITS AND INNOVATION” (2017) を元に 三菱UFJリサーチ&コンサルティング社 試算 GiXo All rights reserved.

1. 会社概要
2. 業績情報
3. Appendix
  - a. 市場環境
  - b. 事業内容
  - c. 競争優位性
  - d. 成長戦略

クライアント企業を”データインフォームド(DI)”な状態に変革するために、3種類のサービスを提供している。



顧客の課題を理解し、「データを用いた数学的アプローチ」で解決を図り、クラウドネイティブなデータ基盤を提供することで、顧客の業務に**データインフォームドな判断**を組み込んでいく。

## 方向性の模索



顧客理解

解法模索

解決策発見

## 業務設計



DIな業務の在り方

判断したい内容

見るべき指標

データ確認の  
頻度/タイミング

## 実装方針



適切なUI

分析環境/  
インフラ

システム接続  
(データ連携)

## 業務アプリ



ダッシュボード  
(閲覧)

業務システム  
(入出力)

リアルタイム  
処理

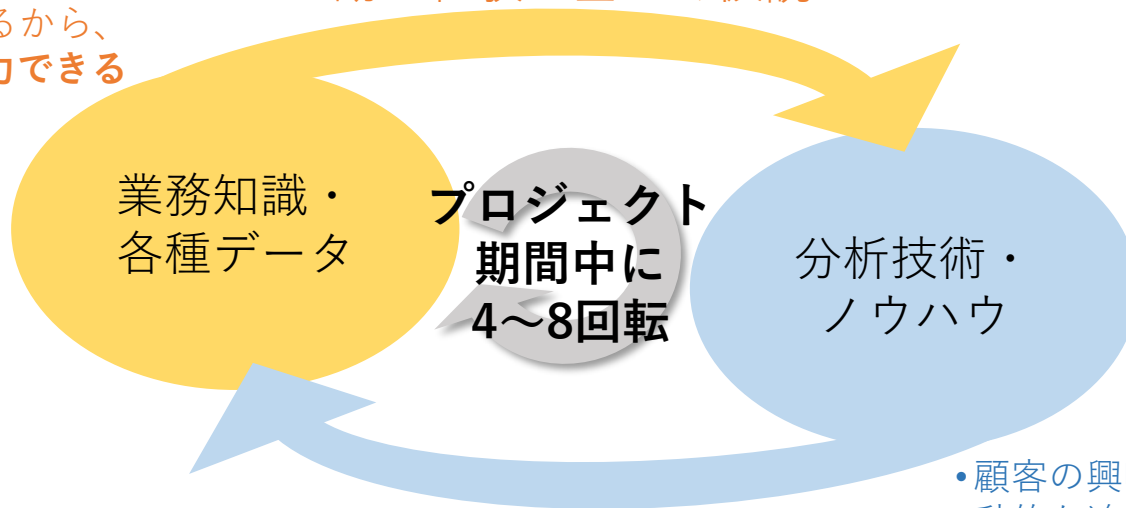
DIコンサルティング

DIプラットフォーム

DIコンサルティングは、仮説検証型・試行錯誤型のデータ分析。プロジェクトを通じて、データに基づいて考える「**DIな思考態度**」をクライアントにインストール。

- 勘・経験をデータで検証・補強する「**仮説検証スタイル**」
- アウトプットがあるから、“深く考える”に注力できる

勘・経験に基づく仮説



分析アウトプット

- 顧客の興味・仮説に応じて、動的な追加分析を行う「**試行錯誤スタイル**」
- 豊富な分析経験で培われたノウハウ、ツール群により**高速処理を実現**

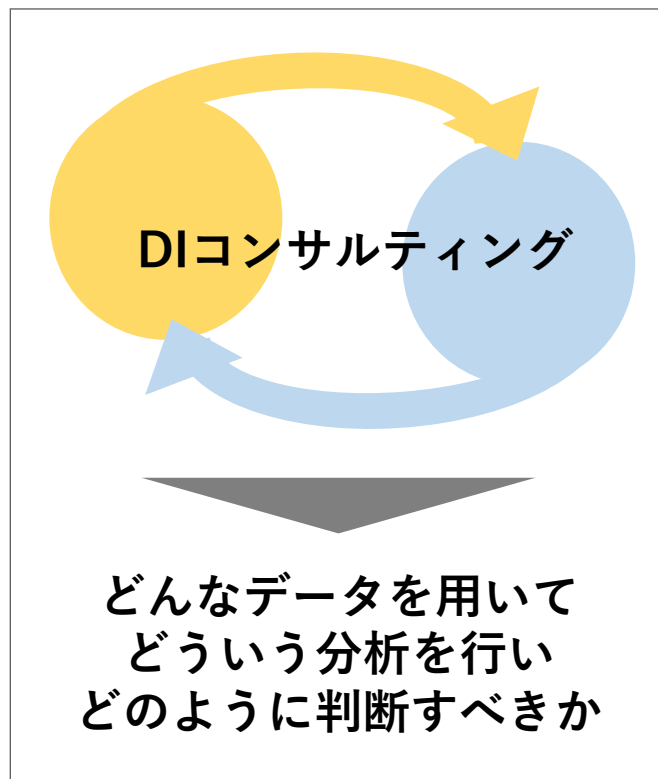
全件・全量データを用いた、全粒度分析に基づいて、**クライアントの業務知識に、事実（データ）という裏付けを。**



DIコンサルティングで見出された「分析要件」を、DIプラットフォームとして仕組み化。**データを用いる思考態度を、日々の業務に浸透させる。**

DIコンサルティングを通じ、  
企業・事業・組織に適した  
**DI業務の在り方**を見出す

DI業務 を実行するために必要な  
“データ基盤”を構築し、**DI推進を加速**



行いたい判断/  
見たいアウトプット  
が明確

使いたい  
データソース  
が明確

業務知識に対する  
理解が深い

要件が明確だから、  
無駄がない

- 過不足なく、業務要件を充足可能
- DIコンサルティングで開発したアルゴリズムを最大限に活用
- “データを見る”という業務はパイロット済み

業務が分かるから、  
理想を描ける

- 将来の拡張性を見越したアーキテクチャ設計

当社の個別課題解決は、各業界のトップ企業様との取り組みが中心です。  
その内容は、“現場”のDI推進と”企画“のDI推進に大別できます。

A

## “現場”に気付きを

DI化の対象

各種セールスパーソン、保険外交員、  
製薬MR、接客職種など

業務変革の  
規模

数百人～数万人

DIの  
適用領域

“現場”の社員が、日常業務の中で発生する判断に際して、DI思想に基づくインプットを活用する  
判断精度が上がり、顧客満足度および販売実績の向上につながる

現場で働く**社員一人一人**がDI化され、日々の活動内容が変化

B

## “企画”に気付きを

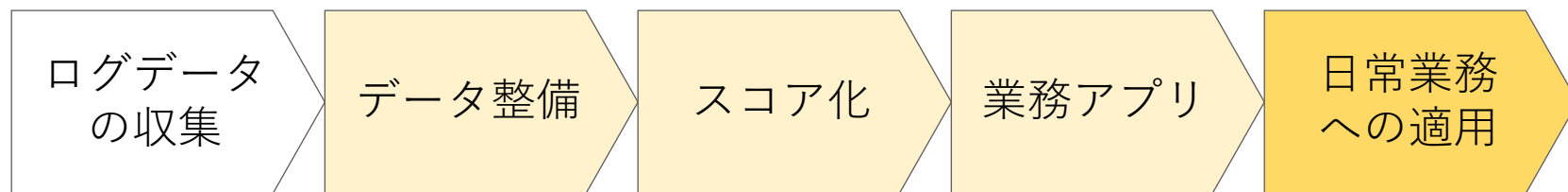
企画職（マーケター、事業企画、サービス企画、物流企画 など）

数人～数十人

“企画”担当者が、DI思想に基づいて、戦略立案、方針策定を行う  
現場社員に向けた作業指示や、顧客/ユーザーの態度変容のための各種施策を、DI思想に基づいて設計

**会議室**がDI化され、より戦略的な作戦行動が可能に

多様なデータから「状態」を見極めてスコア化する。その結果を受けて、どのようなアクションをとるべきかを、“現場”で判断。



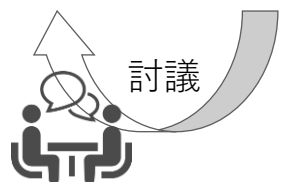
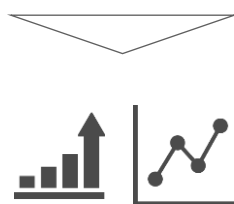
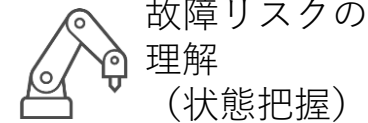
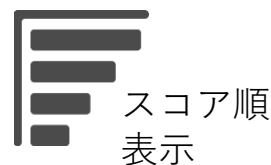
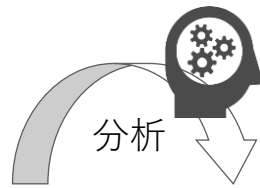
多種多様なログデータを受領

独自手法により短期間で可視化

試行錯誤型分析を高速に実行

業務に合わせてアウトプット

日常業務判断をDIで実施



迅速に実態を把握し活用可能性を見極め

分析と討議を繰り返して「実用レベル」に



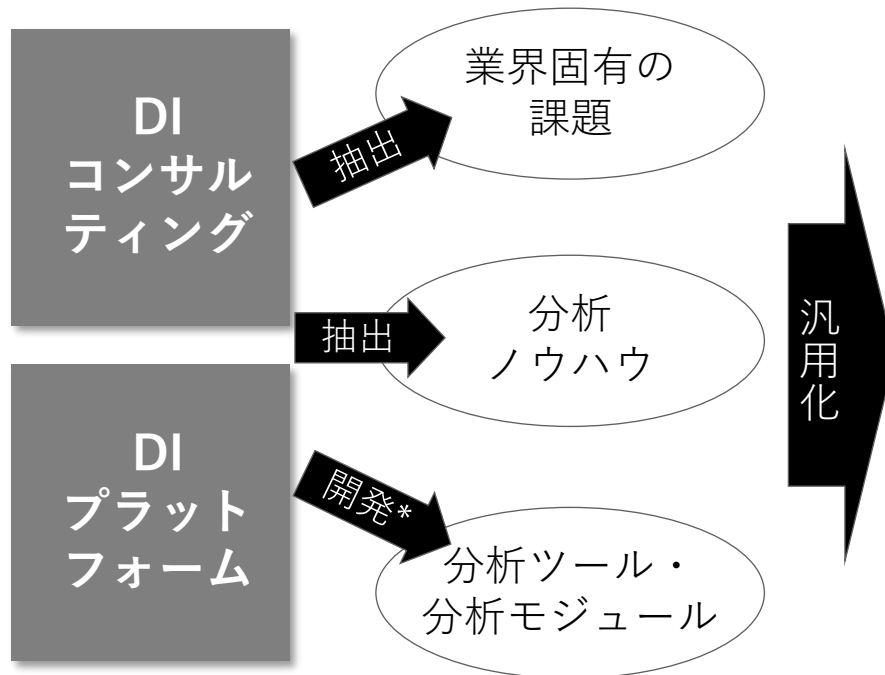
インプットデータからヒト・商品・店舗などの特性を理解するための「属性」を導出。データに基づく打ち手検討を実現し、“会議室”をDI化する。



個別企業向けの課題解決プロジェクトで培ったノウハウを用いて、共通課題解決に役立つ複数のプロダクトを開発・提供することにより、**より幅広い層におけるデータインフォームドな判断**を促進。

## 個別課題解決

各クライアントの課題を解決する過程で、ノウハウ・モジュール・ツールを蓄積



## 共通課題解決

汎用性の高い課題に対して、社内に蓄積されたノウハウ・ツール群をベースに、プロダクトを開発

### DI プロダクト

大企業から中小企業まで幅広いお客様にご提供

**マイグル** 来店・来訪されたお客様、ひとりひとりに、最適なスタンプラリーを提供

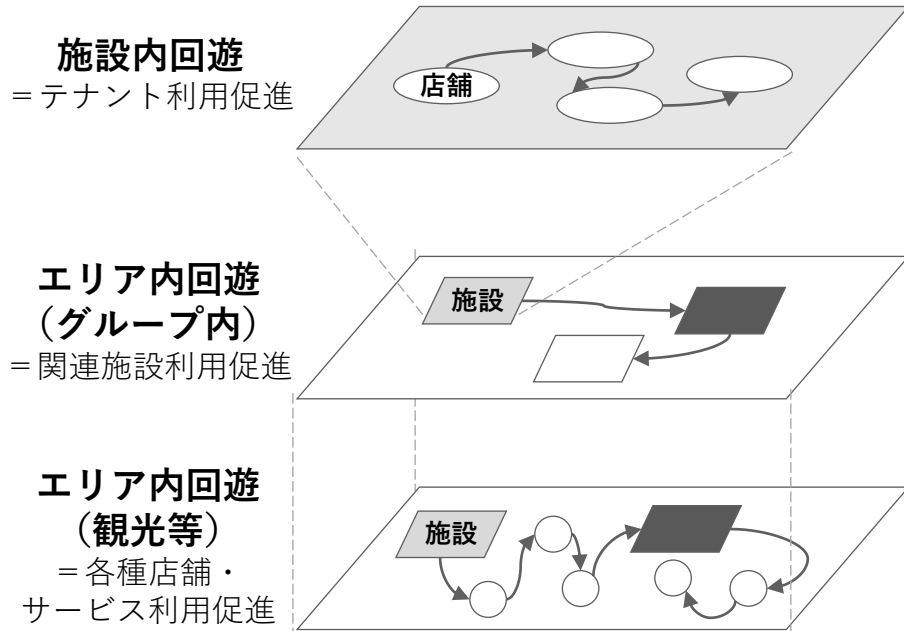
**トチカチ** どんな人が、どんな行動をしているのか？エリアの特徴をわかりやすい表とグラフでご提供

深い顧客理解に基づいて、最適なユーザー体験を提案・実現する。

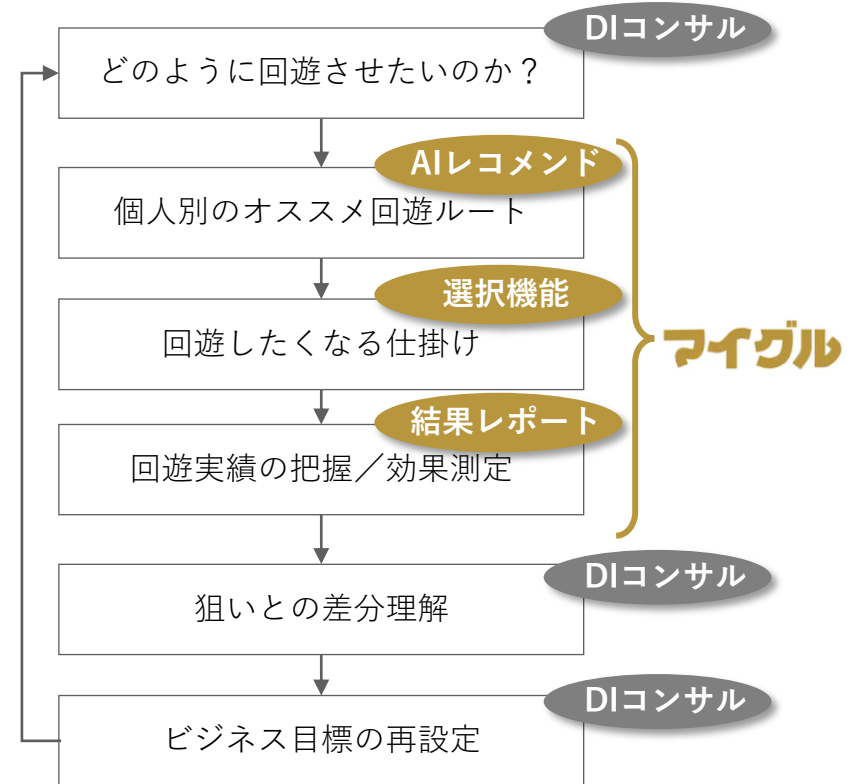
固定化されがちな顧客の行動に対して、**“個々人に最適なスタンプラリー”**を提供し新しい出会い・発見を提供し、回遊を促進

マイグル単体での提供に加え、**DIコンサルティング**による**「付加価値提供」**も積極的にご提案

## マイグルの活用領域（代表例）



- 企業には、**ロイヤルティの向上効果**を
- 観光地には、**直接的な売上増進効果**を
- エンドユーザーには、**気付きと楽しみ**を



マイグルという「武器」を用いることで、顧客理解のインプット増加と、回遊促進の実行を同時に行うことができる（CRM観点でのDIの加速）

これまでにない「企業による推奨」+「消費者自身の選択」の組み合わせが、ロイヤルティ形成に貢献可能であると考えられる。

## 企業による推奨

Marketer-Customization

マーケター (=企業) による  
カスタマイズ  
例) One-to-One Marketing

個々の消費者の好み・考え  
を理解することで、  
最適な商品・サービスを  
提供していく

## 消費者自身の選択

Self-Customization

消費者によるカスタマイズ  
例) マイグルのスタンプ選択

消費者は「自らの意思で選んだ」  
という行為によって、  
その結果をより魅力的に感じる  
(コントロール可能性の効用)

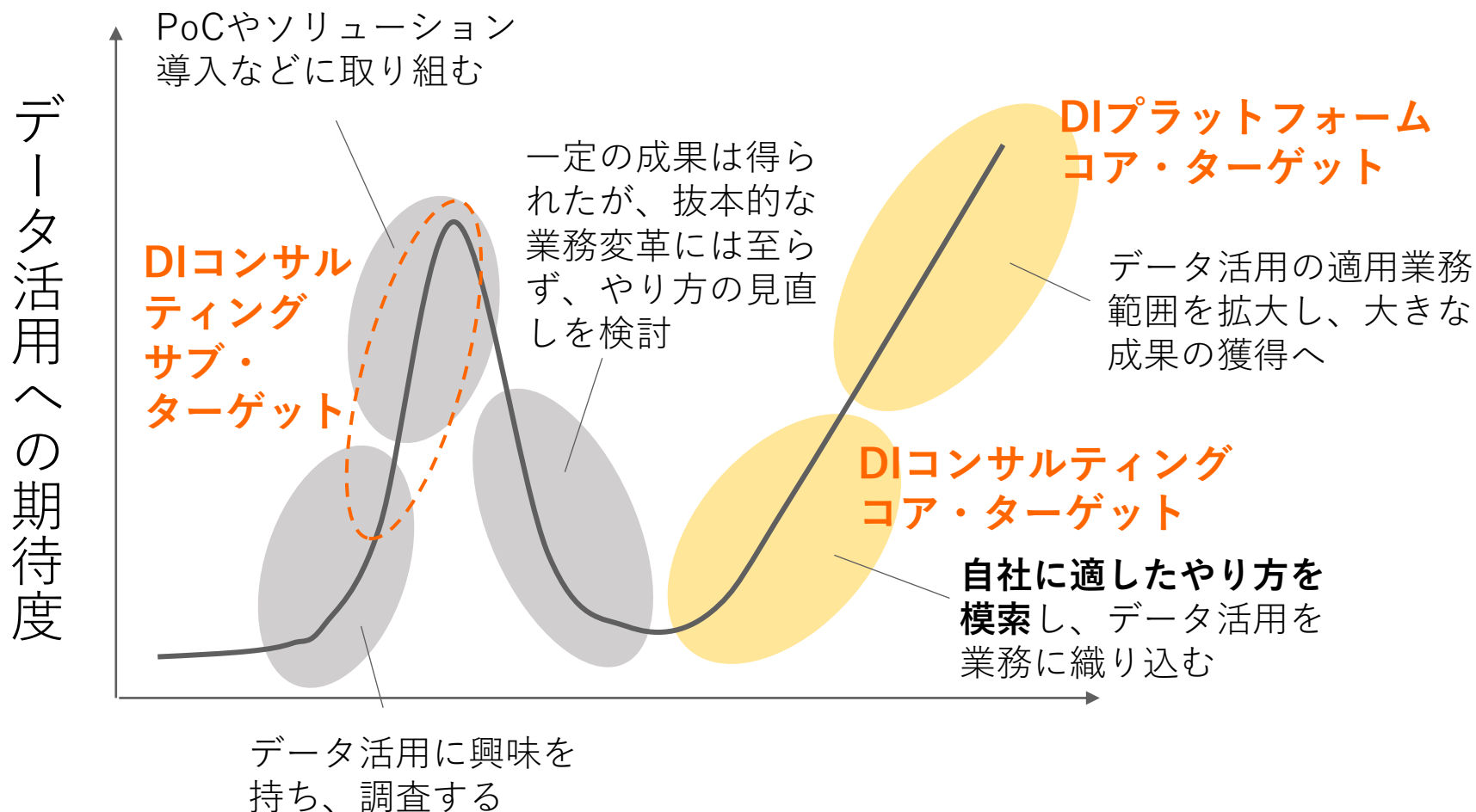
ロイヤルティ  
の形成

上記テーマで、名古屋大学と共同研究を推進中

1. 会社概要
2. 業績情報
3. Appendix
  - a. 市場環境
  - b. 事業内容
  - c. 競争優位性
  - d. 成長戦略



一度取り組んだうえで、自社に適した「やり方」を模索するステージを、コア・ターゲット層と規定。業務変革につながるデータ活用を提供する。  
(データ活用への初挑戦支援も、クライアントのご要望に応じて実施)



ギックスの掲げるDIの思想は「判断」に特化している。共に、試行錯誤を繰り返し、各社各様に適したデータの使い方を検討するため、成果につながる実感を得られる。

判断 = スピードが重要

決まった内容を見るだけでは不十分

何が見たいかを最初に決められない

時間をかけて開発しては間に合わない

**“データ分析をする” ⇔ “何が見たいのかを議論”**  
**試行錯誤を高速に繰り返す**

分析ノウハウ

分析モジュール

各種プログラム

試行錯誤を下支えするアセット群

個別課題に対しては、アセット活用で効率性を担保。得られた知見から共通課題を見出してパッケージ提供に繋ぐ、持続可能な価値連鎖を構築。

敢えてパッケージ化せず、  
個々の事情に合わせてフルカスタム

業種・領域に共通する課題には  
ソリューション提供



顧客への価値提供を行う中で蓄積された当社のノウハウは、ツール化および特許化することで、競争力の源泉となっています。

## 特許

## 社内ツール群

	取得済	出願中
国内特許	6件	10件 うち5件、 JR西日本様との 共同特許
国際特許	2件	0件

## 当社保有モジュールの分類

- 分析前処理モジュール群
- マスタモジュール群
- 記述的分析モジュール群
- 診断的分析モジュール群
- 予測的分析モジュール群
- 処方的分析モジュール群
- 分析後処理モジュール群

当社単独特許に加え、クライアント企業との共同特許化も積極的に推進

7分類/35種以上のモジュールを活用中  
→日々、追加開発中

長年に渡り培ってきたノウハウ・モジュール群を活用した教育方法により、短期間で、当社独自の分析手法を身に着けた「ギックス人材」を育成。

➡ クライアントからの高い要求品質に応えられる体制を、効率的に構築。

## データ活用の 基本思想

- データ活用の目的と手段
- GiXoのデータ活用思想  
(特許技術)
- Database (RDB) の理解
- SQLの技術習得
- 処理モジュールの理解

## 可視化の 基本思想

- 体系的な可視化思想
- 可視化技術 (Tableau等)
- 分析用マートの構築技術
- 可視化の活用方法ノウハウ  
(事業視点での解釈)
- 分析モジュールの理解

## 事業課題との 向き合い方

- 顧客案件への参画
- 分析実務の実施
- 各種モジュールの活用
- 価値創出プロセスの理解  
(課題認識→分析方針策定→分析実施→結果解釈→顧客説明)

入社後トレーニング (4~8週間)

OJT (8~16週間)

上記、人材育成システムを活用した、他社人材の受入・育成実績も存在  
(公開可能事例：JR西日本、BIPROGY)

1. 会社概要
2. 業績情報
3. Appendix
  - a. 市場環境
  - b. 事業内容
  - c. 競争優位性
  - d. 成長戦略

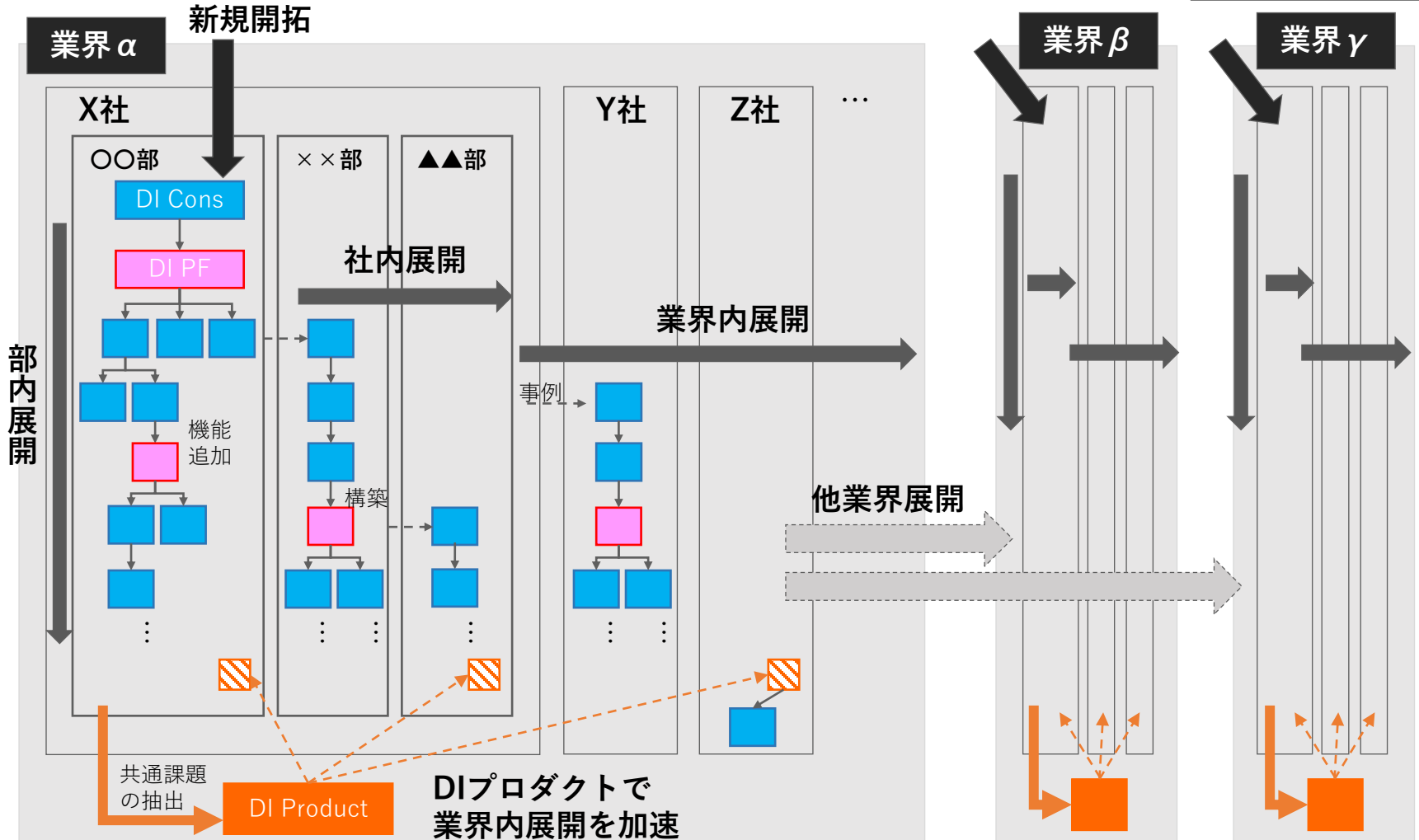
「業務判断」市場を狙いとしている。



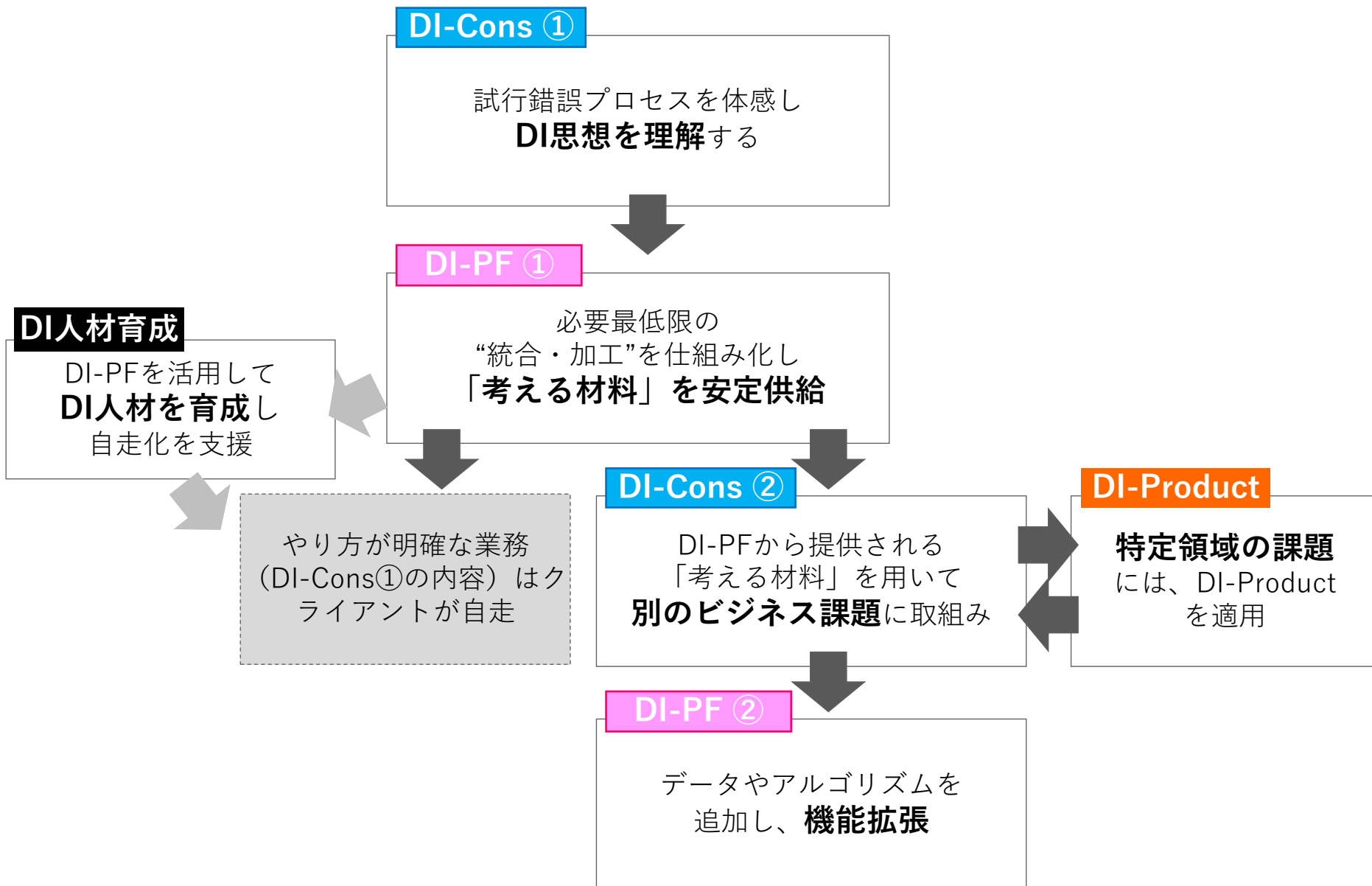
DI思想の部内展開・社内展開・業界内展開・他業界展開を、3つのサービスを柔軟に組み合わせることで、高速且つ効率的に推進する。

凡例：	DIコンサルティング
3つの	DIプラットフォーム
サービス	DIプロダクト

## 当社の顧客開拓の流れ（イメージ）







DIコンサルティング・DIプラットフォーム・DIプロダクトの3つのサービスを、個別に進化させると同時に、それらの融合・連携を推し進めていきます。

## 各サービスの成長戦略

## 位置づけ・役割

個別課題解決	DIコンサルティング
	DIプラットフォーム
共通課題解決	DIプロダクト

### アセット活用の更なる推進

- 一人あたり生産性向上
- 高付加価値化 = 単価向上

### リーンな仕組み作り

- “考える材料”づくりに特化
- クラウド・ネイティブでムリ・ムダの無い仕組みを実現

### スーパーアプリへの組込み

- 大規模な会員基盤を持つエンタープライズ向けに注力
- 個別課題解決サービスとの連携強化

- 新規顧客開拓および、顧客内横展開の鍵
- DI思想の布教・浸透の中核

- 顧客内縦展開の要諦
- クライアントが「自走」するための礎

- 分析データの供給源（データソース）
- 施策の実行手段

「あらゆる判断を、Data-Informedに。」の実現に向け、プロジェクト実施数を着実に積み上げると共に、その中で得られた知見を知財化し、生産性向上・付加価値向上を実現している。

2013

2022

特許  
(出願日)

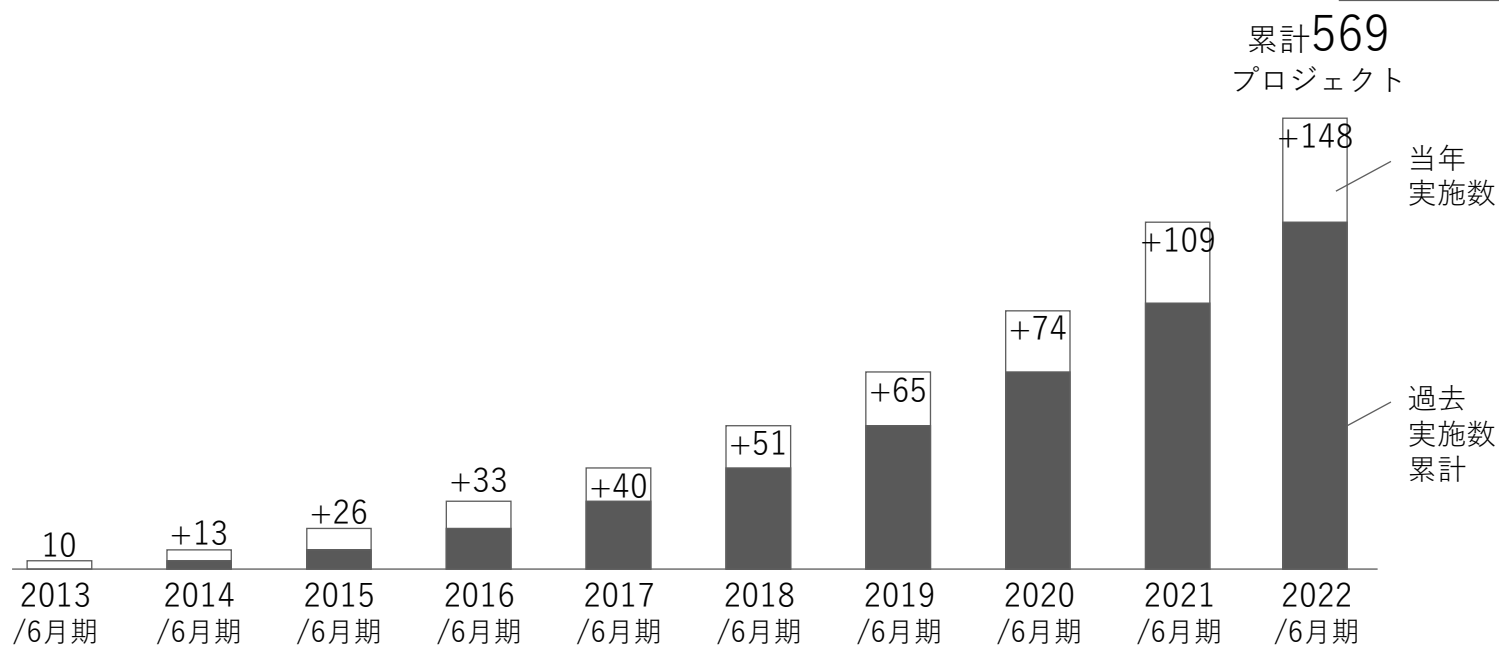
国内  
国際

16件  
(うち出願・審査中10件)

2件

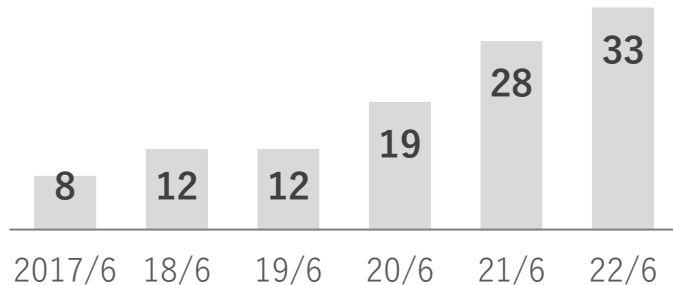
凡例  
▽ 取得済み  
▼ 出願中

プロジェクト  
実績数\*



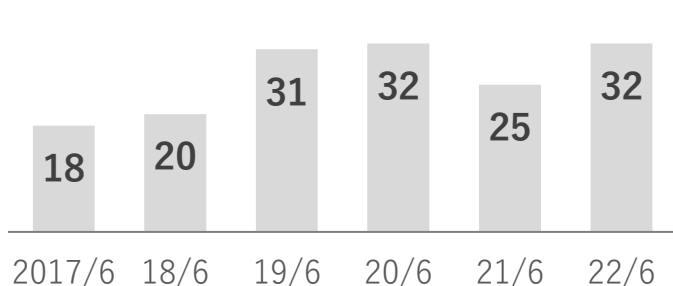
売上

従業員数  
(人) \*



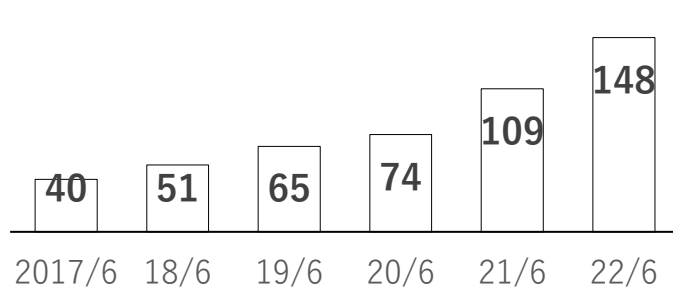
- 直近は間接部門強化
- 今後はサイエンティスト、エンジニアの採用を加速

一人あたり売上  
(百万円)



- 上場準備に伴い一時的に低下
- 2023年度以降は回復及び、更なる上昇を目指す

プロジェクト  
実施数\*\*  
(件)



- アセットを活用して、実施効率を向上
- 今後も、着実に遂行能力を高める

\* 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）

\*\* 各年度における実施プロジェクト数（DIコンサル/DIプラットフォーム/DIプロダクト合算）

※同一クライアント内で2つの契約がある場合は、2としてカウント

リスク分類	主要なリスク	発生可能性	影響の大きさ	当社の対応方針
DI事業固有の 事業推進の不確実性	DI人材の確保・維持および育成	中	大	パートナー人材の受入れ アセット活用型育成モデルの強化
	特定の売上先への依存	中	中	クライアントの部内/社内展開による関係深化 業界内展開・他業界展開による顧客増
スタートアップ各社 に共通する 事業推進の不確実性	技術革新による影響	低	大	積極的な研究開発投資
	新規事業の創出	中	中	アセット活用の強化 積極的な研究開発投資
法規制等の 不可避の制約	規制強化の影響 / コンプライアンス対応	中	中	リスク・コンプライアンス規定の整備 および、新たな規制等への注視体制
一般的なリスク	外部クラウドサーバーへの依存	低	大	GoogleCloudPlatform、Microsoft Azure AmazonWebServiceを併用
	コロナによる景気変動	中	中	複数の業界とのお取引によるリスク低減

当社が事業展開その他に関してリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項について記載しております。その他のリスクは、有価証券届出書の「事業等のリスク」をご参照ください。なお、文中の将来に関する事項は、現在において当社が判断したものであり、将来において発生する可能性があるすべてのリスクを網羅するものではありません。また当社のコントロールできない外部要因や必ずしもリスク要因に該当しない事項についても記載しております。

本資料は、情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、当社の有価証券の買付けまたは売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。本資料に含まれる将来予想に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。将来予想に関する記述には、当社の事業計画、市場規模、競合状況、業界に関する情報及び成長余力等が含まれます。そのため、これらの将来予想に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。また本資料には、当社の競争環境、業界のトレンドや一般的な社会構造の変化に関する情報等の当社以外に関する情報が含まれています。当社は、これらの情報の正確性、合理性及び適切性等について独自の検証を行っておらず、いかなる当該情報についてこれを保証するものではありません。なお、今後、将来発生する事象などにより内容に変更が生じた場合も、当社が更新や変更の義務を負うものではありません。

DIコンサルティング

経営課題に全量データ分析でアプローチ

DIプロダクト

“マイグル”

あらゆる判断を、  
Data-Informedに。

DIプラットフォーム

クライアントの日常業務をDIに

DIプロダクト

“トチカチ”